＝私たちの活動　４つの柱＝
＊制度化と指導員の身分保障
＊専門性と仕事の確立
＊父母と共に学童保育運動の発展
＊全国の指導員との団結と連帯

建交労愛知学童保育支部

支部ニュース

2020．２．３．
ＮＯ．３０３
全日本建設交運一般労働組合
愛知学童保育支部　発行
名古屋市中川区宮脇町2-99-2

なぜ、組合活動休暇なのか　その6

保守市政の名古屋市議会から学童保育攻撃で「制度化大運動」

指導員はボランティア

１９８３年の名古屋市議会の「部分採択」である「・人件費補助を大幅に増額すること。当面、長期休暇中の午前中の指導時間に見合うよう人件費補助をすること。・指導員が社会保険制度を適用できるよう援助すること。」が、なかなか予算化されていない中１９８５年に名古屋市長選挙があり「保守」市政に変わりました。

１９８６年３月に「福利厚生費補助」が新設されると名古屋市議会から「付帯決議」が出されました。

「留守家庭事業については、地域の真の理解と協力と納得を得るよう努めるとともに、小学校の特別教室などを利用することに最大限努力すること。またこの制度がボランティアであることを考慮し、給与の性格を帯びないよう慎重に対処すること。」と採択し、学童保育指導員は「ボランティアである」とレッテルを張られ「給与の性格を帯びないこと」と労働者性も否定されました。

制度化を求めて

再び組合内部では失望と落胆の声が広がり、退職意向の声まで多く出てきました。

支部執行委員会と名古屋市連協役員会では、連日のように夜中までの大議論を行いました。「学童保育の役割と指導員の仕事」の理解を深め、確信としていくために各学童保育は『父母会活動の充実』（父母と指導員の共同の子育て活動）と『地域に根ざす学童保育づくり』を共通の課題として年間を通じて追及していくことを教訓とし、◎名古屋市議会からの学童保育攻撃を打ち破るためにも、みんなの怒りを『制度化を求める大運動』につなげて秋から年末にかけて毎年すすめていく方針を確認しました。

「わたしたちの怒りを表現するためにも、請願署名の目標数を５０万名にしよう！」「たとえ名古屋市議会で『不採択』となっても『わたしたちの要求』であることには変わらないはず」「５０万請願署名や地域役職者の賛同署名の重みは市議会でかならず無視できなくなるはず」と『制度化を求める大運動』を市連協と共に確認しあいました。

50万筆をこえる署名

１９８６年には、前年の２２倍以上の４９０２３名・紹介議員８人・賛同署名１４５９名集約しました。

この結果に翌年、名古屋市議会は不採択にしましたが『継続は力』と毎年『制度化を求める大運動』をすすめ１９８９年までには５３４８９名・紹介議員１７人・賛同署名３３６７名集約するまでとなりました。

１９８９年３月に名古屋市が「長期休暇中の午前対応手当て」（５０日×２．５時間）新設に市議会承認。

１９９０年２月の名古屋市議会で「制度化」は保留されましたが、３項目が採択されました。

・「助成金の大幅増額」
・「老朽プレハブの立替個所数の増加」
・「留守家庭児童クラブ（児童館）の月曜実施」

名古屋市連協とともに進めた『制度化大運動』は、怒りの目標として掲げた「５０万署名・３千名の賛同署名」を超えるようになり、紹介議員も新しい議会の中で二倍以上となりました。

制度化要求も「不採択」から「保留・一部採択」と変化し、要求の前進が見られるようになり『継続は力』と仲間の中でいっそうの勇気と確信が生まれてきました。

春闘方針を確立

1月19日（日）、第1回支部委員会が開催されました。市川委員長は開会で「今年も憲法改正を許さない闘いが求められている。解散総選挙があるかもしれないので、不正を許さない立場でしっかり政治を見ていきたい。」とあいさつされました。

春闘方針の提案では、情勢と絡んで、指導員の配置は参酌化されたが、今の体制を守っていくことや、今春闘では、格差の広がりを埋め、要求をしっかり出して、消費税の2％アップも含めて2％以上のベースアップをめざしていきましょう。また、「組休」の協定化を正面に掲げ、要求書を提出していきましょう、と提案され、労対部から、「統一要求基準（案）」の提案と説明が行われました。

委員からの発言旨

（中村分会）休職している仲間がいて、心配している。要求を掘り起して、要求書を提出していく。拡大では、学童のOBや空白職場の指導員に声を掛けていく。

（港熱田分会）豊かな生活が送れるように、当面する労働条件を求めていきたい。組休の協定化は、暗黙の了解になっている。カンファレンスなどの学習を進めていきたい。

（緑分会）各学童保育にアンケート、実態調査に取り組んでいる。保護者との関係の悩みなどが出されている。アンケートを通じて、空白学童保育と接点を持っていきたい。

（天白分会）組合員が減少している。組合の活動、組合費が負担になっていないか。組織拡大費は余っているので、どう戻ってくるのかなどを分かりやすくしないといけないのではないか。

（中川分会）12月に要望書作成に向けて、アンケートを実施している。忘年会を行い、仲間の団結を深めている。空白学童に拡大していきたい。

（瑞穂南分会）昨年、脱退する人が多かった。組織強化をどうしていくかを話し合っている。分会サイクルを見直し、交流や学習、カンファレンスなども行っている。春闘に向けて、グループで討論している。分会で日帰り旅行や新年会などで親睦を深めている。

（千種分会）入所格差が拡がっている。10人以上の入所から1～2名しか入所の見込みがない状況。12月に要求掘り起し論議をして、1月17日に要望書を提出した。有給などの学習会を行っている。

（名東分会）14学童保育所所のうち12学童保育所が合同雇用に入っている。今後、残り2学童保育所も加入する事になる。賃金格差がなくなってきた。非常勤の方から、毎月の組合費変動は困ると言われている。指内研の実践記録をQRコードでやれないか。

（中西分会）4名で活動している。西区は、賃金が低い。常勤指導員に対して、年棒制の提案がされている。どう考えたらいいのか。学生にも声を掛けて、拡大をしていきたい。

（北分会）12月に春闘アンケートに取り組んみ、1月にグループに分かれて討論している。センターと単独学童保育所で初任給や時給に格差が生じている。

すべての分会から、発言がされました。

分会前にヨガをしたり、マラソン大会に出場して、分会で楽しい事を行っている。

（守山分会）入所人数が多くて、抽選する学童保育所がある。入所問題で新規の保護者から質問があり、悪い噂が流れる恐れもある。拡大は、困難があり、なかなか進まないが、合同職員会議で声を掛けていきたい。

（昭和分会）11月に知る会を行い、カンファレンスを行い、2名が参加し、1名が加入した。午前の準備時間が短いので、8時間労働にして、4週8休になるように提案したい。入所増で、3年前入所制限を行うか議論した。「学童があって良かった。助かった。次にどう渡していくか」と話し合った。抽選は辞めて、分離する議論が進んだ。

（東分会）春闘議論を進めている。入所は、ランク付して、兄弟以外20人入所を断った。

（春日井分会）5名で活動しているが、「ホッとできる分会だったか」を問い直し、月1回の分会では無理だと感じた。非組の方にアンケートを行い、辛い思いで働いている人がいることが分かり、労働相談などに取り組んでいきたい。

（津島分会）2名で活動している。新しい組合員の意見を聞いて、市へ要望書を出すだけではなく、NPOにも要望が必要だったと感じた。

最後に、田村書記長から「討論のまとめ」が行われました。

財政について、分会援助金を増やし、組織を強くして、長く働き続ける身分労働条件を向上させ、自治体施策を前進させていく必要がある。実践記録のQRでの提案は、今年度は紙ベースとして、来年度の課題にしたい。入所問題では、国から入所の優先順位が9項目として通知が出されているので、通知を前提にして議論していただきたい。

春闘では、これまで働き続ける人がいて、身分保障を公費で勝ち取ってきた。身分向上と事業所存続が不可分になっている。

拡大では、接点をいかに作っていくのかが大切。働くみんなの要求アンケートでは、「職員不足」なども多くなっている。これらの要求を踏まえて、拡大を旺盛に取り組んでいこう。

議案が採択では、1号3号4号議案は、全会一致で、2号議案は賛成多数で採択されました。

午後から、支部の「交流会」が開催されました。執行委員を含めて16名が参加し、卓球と麻雀に分かれて交流を深め合いました。